

事業仕分け「スーパー堤防廃止」の実態と 国会請願・院内集会の緊急報告会を開く

11月14日（木）午前10時から小岩アーバンプラザの第2集会室で、緊急報告集会が開かれました。この集会は、10月28日に行なわれた行政刷新会議の事業仕分けで「スーパー堤防廃止」の判定が出され、一部の住民の間に、『これでスーパー堤防はなくなつた』と誤解されている人もいるため、その実態を伝えるとともに、11月10日に行なわれた「国会請願と院内集会」の模様を、住民の皆さんに報告する為、緊急に開かれたものです。

北小岩地区・18班地区・篠崎地区の3つの会が主催し、永田事務局長（北小岩考える会）・森須代表代行（18班考える会）の司会で進められました。

はじめに院内集会で使ったスライドに新しい情報を加えながら、スーパー堤防の問題点を渡邊拓美氏が説明しました。次に堀座長から院内集会を開くまでの運動の経過と目的が話され、続いて事業仕分けの現場で傍聴した時の模様が語られました。

その後、3つの会の戸口素男運営委員長、宮坂健司代表、渡邊清明世話人代表がそれぞれ、院内集会で報告した内容を報告しました。

日本共産党の前田義則氏（笠井亮衆議院議員秘書）が、国政レベルで党として「スーパー堤防廃止」の事業仕分けの判定に対し、これを名前を変えた復活や、一般会計での予算化を許さないためにも、反対する超党派で監視しなければならない、と語りまし

た。また、民主党の神尾昭央氏（初鹿明博衆議院議員秘書）はメッセージで、民主党として判定を出したことから、党を挙げて完全廃止まで頑張る、としました。（初鹿議員と神尾秘書は後半に駆け付け、挨拶をいただきました）

最後に会場から質問があり、馬淵国交大臣が「八ッ場ダム中止」の方針を撤回し、「中止としない」など、最近の民主党の政権運営に不満の声も出しました。また、江戸川区は嘘のデータと資料を作り上げ、最初から住民を騙して説明してきた、何が何でもスーパー堤防をやろう、という区の態度に、怒りの声が上がりました。

当日は45人の方が参加しましたが、熱心に皆さんの話しを聞いていました。

江戸川区議会議員の方々も参加（藤沢久美子＝日本共産党、稲宮須美＝生活者ネット、田中けん＝一人の会）され、それぞれが区執行部の姿勢に疑問を投げかけ、スーパー堤防構想を批判していました。



緊急報告集会で報告する初鹿明博衆議院議員（民主）とその左／笠井亮衆議院議員秘書の前田義則氏（共産）



前列右から、篠崎地区の渡邊清明世話人代表と左へ18班地区宮坂健司代表、北小岩地区戸口素男委員長



会場から発言する北小岩地区の鷺尾周司事務局次長（偽りのデータで住民を騙してきた江戸川区を批判）

スーパー堤防
S・T・U・Sが
命の仕分け 許さず
ごめんなさい

安中茂作の
スーパー川柳
第六十二弾